

平成 25 年地域公共交通優良団体として

魚津市公共交通活性化会議が

国土交通大臣より表彰されました

9 月 1 8 日 国土交通省内の会議室において、地域公共交通に関する取り組みに顕著な功績があったとして、「魚津市公共交通活性化会議」が国土交通大臣より表彰されました。

北陸信越運輸局管内では、平成 2 1 年の安曇野市地域公共交通活性化協議会、平成 2 3 年の三条市地域公共交通協議会、平成 2 4 年の珠洲市地域公共交通活性化協議会の受賞に続き、4 団体目の受賞であり、富山県内の団体としては初受賞となります。



魚津市公共交通活性化会議(富山県魚津市)

確保維持改善事業

取組み(功績)の概要

『地域の総力で育む魚津市民バス～潜在需要の顕在化による毎年度の利用者増～』

- 路線バスの休廃止を受け、地域住民(現在の運行NPO法人会長等)が各地区を訪問し、NPO法人によるバス運行・住民負担への理解を得ながら、NPO法人6団体を順次立上げるとともに、「魚津市民バス」の運行を開始。また、地域住民がバス停ベンチ設置等を行う「バス・サポーター制度」を創設するなど「マイバス意識」を醸成している。
- 地域住民のニーズ調査にあたっては、「真のニーズ把握は、住民との対面」で行うことが効果的。紙面アンケートはPR効果を狙うもの」との見解に基づき、民間事業者撤退後の不採算ルートにおける運行という厳しい与件にも関わらず、地域公共交通(バス)への潜在需要を顕在化させることで、対前年度比で毎年度の利用者増を達成。市民バスのPRIにあたっては、「バスくん」「交通安全くん」に扮した市役所職員が地元CATVに出演する等の広報活動を展開。
- 市民バスを活用した商店街・中心市街地活性化のイベント(「まちなかアート」・「街めぐりスタンプラリー」)を企画・実施。また、商店内における「バス待合コミュニティプラザ」の設置等、市民バスの運行を通じた地域コミュニティの活性化を実現。さらに、企業からのネーミングライツ・協賛金により、バス事業費を獲得。その他、北陸能力開発大学校とバスロケーションシステムを共同開発・導入する等、市役所、地域のNPO法人、住民、地元商店、教育機関等を含めた幅広い協働体制が構築されている。

○事業内容

1. 市内バス運行による地域コミュニティの活性化

- ・ 利用者・バス運転手等との対面によるニーズ把握等により、対前年度比で毎年度の利用者増を実現。また、地元商店との連携による高齢者の外出機会の創出や、「魚津市民バス10歳の誕生日」等のイベント企画、小学生の校外活動における市民バス活用等による地域コミュニティの活性化を実現。



「どうしたらバスを利用してもらえるか？」座談会(利用者との座談会)



地元商店玄関(敷地内)に市民バス停を設置。ドアtoドアに近い買い物環境を実現。



市内各施設に、鉄道・バスの運行路線等を分かりやすく示した時刻表を掲示



市民バスに関する各種イベントを企画・実施



市民バスを活用した校外活動



バスアテンダントの設置

2. 地域住民と市等の運行負担割合の明確化による「マイバス意識」の醸成

- ・ 事業費1/3の収入確保を条件として、地元NPO法人に市民バスの運行委託を行うことにより、「マイバス意識」を高めるとともに、行政負担額の抑制を図っている。



市長と住民がバスについて議論

3. 「バス・サポーター制度」の創設

- ・ 現在30名が登録し、バス停周辺の環境整備を実施。「市民バスとは、地域住民の活動により盛り上げ育むものである」との意識醸成及び地域住民との協働体制を構築。



サポーターによるバス停ベンチ等作成風景



バス車内にサポーター氏名を掲示

4. 教育機関との協働によるバスロケーションシステムの開発

- ・ 北陸職業能力開発大学校との共同開発により、安価なバスロケーションシステムを開発・導入。
- ・ パソコンや携帯電話を使用しない利用者については、「バスの現在位置お知らせ電話番号」(観光案内所等)に電話による問い合わせを行うと、バスの現在位置を知ることができる。



バス停にバスの現在位置お知らせ電話番号(観光案内所等)を表示

5. 地元ケーブルテレビを活用した市民バスのPR

- ・ 市役所職員自らが市民バスPR放送企画案を地元ケーブルテレビ会社に持ち込み、放送枠を獲得。市役所職員が「バスくん」「交通安全くん」といったキャラクターに扮することで、市民バスの関心の醸成に努めている。



広報番組「ましかど魚津」の映像